



小牧山

# 戦国に馳せる

～織田信長サミット2009に向けて～

第4回 織田信秀と信長

名古屋市博物館学芸員  
鳥居和之

戦国時代の尾張の城郭



尾張城館図

## 尾張の分裂

15世紀中頃の応仁の乱では、都でも地方でも東軍と西軍に分かれ戦いを繰り返しました。尾張では清須城の織田敏定、岩倉城の織田寛広が戦い、やがて両者が国を分割して支配しました。当時、小牧のあたりは岩倉城の守護代の領域だったようです。江戸時代に作られた系図では、信長の曾祖父を織田敏定にしてありますが誤りです。信長の家系は守護代家をささえる有力家臣でしかありません。代々「弾正忠」という官職名を名乗るので、「ここから良信、信貞、信秀、信長と続くことがわかりますが、さらにさかのぼることは困難です。」

## 信秀の城

信秀が勢力をのばすには、他の武士は当然のこと、織田一族、特に主家にあたる清須城の守護代を家臣

にするか、攻め滅ぼさなければなりません。

そのために必要なことは経済力と城の位置取りです。信長の先祖は勝幡(稲沢市平和町城之内)に城を構えました。勝幡から南西2kmほどの所には、伊勢湾の海運で繁栄した津島があります。今日も盛大に行われている津島祭りはこうした経済力を反映して始まったもので、信長の祖父信貞は、何度かの戦いの末、津島を支配下に置きました。

## 信秀の活躍

次に信秀は那古野城にうつり、古代以来の門前町である熱田に手を伸ばします。那古野城は現在の名古屋城二の丸付近にあった城で、今川氏の一族那古野氏の居城でしたが、信秀が攻め落として自分の城にしました。信秀は、商業活動の発展していた津島・熱田を経済的な基盤としたのです。

## 信長の生まれた場所

信長が生まれた場所については勝幡城と那古野城の2説がありました。信長は天文3年(1534年)の生まれですが、かつてはこれ以前に那古野城を落としたと考えられていたため、那古野城の生まれとする説が



岩倉城跡

## 大器のうつけもの

ありましたが、現在ではこれ以後の攻略とわかり、信長は勝幡城の時代に生まれたことに決着しました。

天文21年、信秀の位牌に抹香を投げつけた信長に対し、「うつけもの」と家臣が嘆いたという話が残っています。しかし、信長は愚か者ではありませんでした。信秀の死後、信長は実弟の信行(信勝)を殺害して家督争いに決着をつけ、次に守護代織田信友を殺害し、清須城を手に入れました。この非情に見える信長の決断が、信秀にできなかった新たな主従関係の出発点となったのです。

問合先 文化振興課(☎76 11 89)

訂正 広報5月15日号、6月15日号に掲載しました「戦国に馳せる」の執筆者、高木久史氏の役職は「安田女子大学文学部講師」の誤りでした。お詫びして訂正します。